

初期プロット案+
キャラクターデザイン集

メロンブックス購入特典

へりを
[herio]

さて。

ちぐはぐストライド



ひねり系
千ピ男子

主人公大好き
人気者女子

主人公・薫

チビ男子。みのりを追いかけて受験先を選んだ。

ヒロイン・北条みのり

デカ女子。幼馴染の薫が好き。

朝、薫の教室に現れるみのり。薫が家に忘れた弁当を教室に持ってきたらしい。

「最近は独りでさっさと行っちゃうから忘れるんだよ。あわてんぼうだなあ」と薫の頭を撫でるみのり。

そういう扱いするから一緒に登校したくないんだ、と手を払う薫。

薫の学年でも、目立つ外見と気さくな性格で人気なみのり。

みのりの手作り弁当だと周囲に勘違いされ、恥ずかしくなった薫は「幼なじみだからって余計なことするな!」と邪険に扱ってしまう。

みのりは一瞬悲しげな表情をするも、始業のチャイムを聞いて自分の教室に戻っていく。

昼休み、校舎の屋上で一人黙々と弁当を食べる薫。

そこに現れるみのり。「教室にいなかったから、ここかなーと思って。かおちゃん、家の屋根の上好きだったもんね」

「何か用かよ」

「今朝のこと、ちゃんと謝ろうと思って」

「謝るのは自分の方だ。」

人当たりが良く外見も目立つ人気者として手の届かない存在となったみのりに対するコンプレックスを募らせていた薫。体だけでなく器量も小さい自分が情けない。

が、みのりは薫がもっといい学校に行ける学力があるにもかかわらず、「ずっと一緒にいよう、学校も一緒のとこ行こうね」という昔の約束のため、進学先としてみのりのいる学校を選んだことを知っていた。

「かおちゃんは小さくない。カッコいいよ。」

バレていたことを知り顔を真っ赤にする薫。さらに畳み掛けるみのり。

「私、かおちゃんのそういうトコ好きだよ。かおちゃんは私のこと好き?」と薫を壁に追いやるみのり。

「そこまで知ってるなら言わなくてもいいだろ」

「ちゃんとかおちゃんの言葉で聴きたい」

と、そこでなる午後の授業の予鈴。

「教室戻らないと」

顔真っ赤のまま見つめ合う二人。観念した薫、

キスで返す。

「好きに決まってる」

蕩けるくらい嬉しそうな表情のみのり

「そういうトコ、やっぱりカッコいい。…もう一回」とキスする二人。

だんだん激しくなり、思わず勃起する薫に気付くみのり。

「これって一度抜かないと収まらないってヤツだよな」

授業開始のチャイムが鳴る

「ほっときゃ治まる。授業始まるぞ」

「…だめ。今は授業よりかおちゃんといたい」

座り込んで薫のジッパーを下ろす

「昔一緒にお風呂入った時とは全然違うね」

「同じでたまるか」

腰をがっちりホールドしてフェラ。

幼馴染にものを咥えられている現実が高まる薫、射精。

薫の精液を飲み干すみのり

「お前、飲んだの…!?!」

「かおちゃんのだから…捨てたくなかった」

薫、さらにいきり立つ

「全然治まらないね。じゃあ…次はこっちでしょ」

ショーツを脱ぐみのり。

糸を引く程濡れている。

「かおちゃんの舐めてたら私もこんなになっちゃった」

釘付けになる薫、

うるんだ目で見つめながら薫の腰にまたがり、そのままゆっくり挿入するみのり。

幼少期から何度もじゃれ合った相手と体を重ね、さらに興奮する二人。

みのりの腰の動きが激しくなる。

「ゴメンなかおちゃん、腰止まらない…。えっち過ぎるからってひいたりしないでね?」

「ひくわけない、俺だって男子だし… えっちなみのりも…好きだから」

好きと言われて体を大きく跳ねさせ、絶頂するみのり。

「……嬉しすぎてちょっと疲れちゃった。今度はかおちゃん動いてくれる?」

体勢を変えて対面座位、激しく腰を振る薫。

「気持ちいい、カッコいいよかおちゃん…」まだ余裕のありそうなみのりを押し倒してブラウスをはだけさせ、乳首にしゃぶりつきながら杭打ちピストン。

「いつまでも年上ぶってんよ…!俺だってみのりのこと気持ちよくさせてやれるんだから…!」

膣内の弱い部分を何度も突かれ余裕を失うみのり。

二人で強く抱き合いながら絶頂。

「結局リードされっぱなしだった…」とヘコむ薫を、

「そんなことないよ、かおちゃんが頑張ってくれたのすごく嬉しかった」と励ますみのり。

「でね、かおちゃん。明日からは…その…」と何かを言い淀むみのり

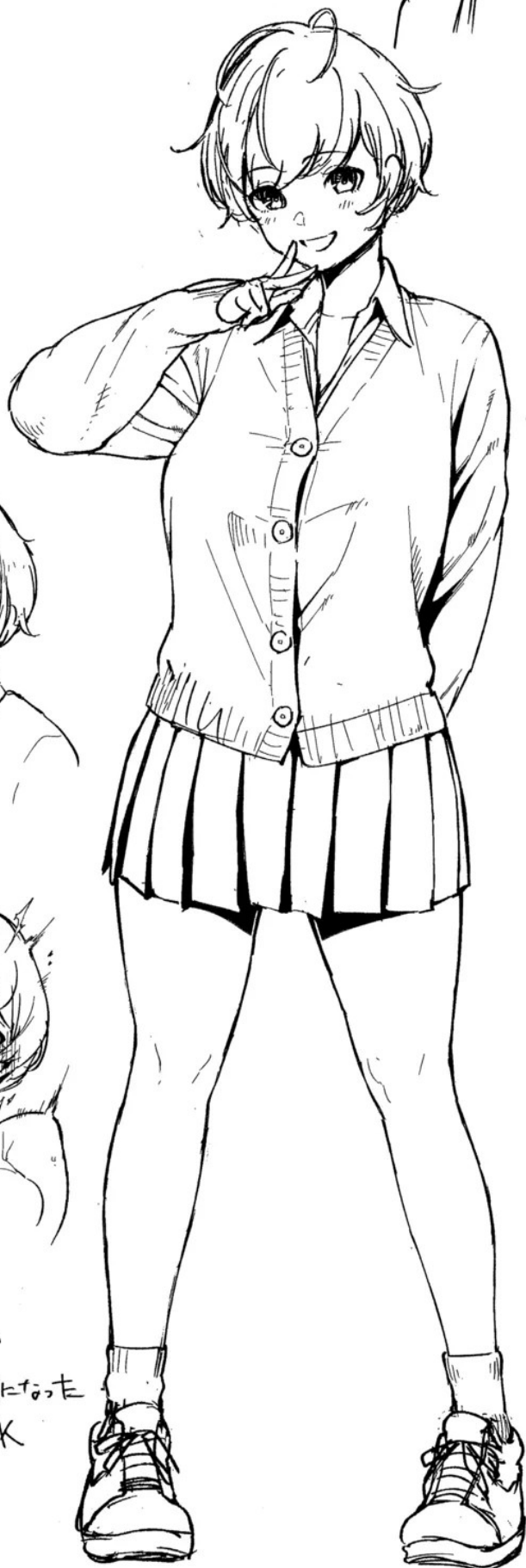
それを見て察した薫、「明日からは朝一緒にいこうな」とみのりの手を握る。

嬉しそうなみのり。

終

花が再び咲くころに

新任の教師



レイプ被害で
男教師不審になった
JK

教師と生徒もの

設定・あらすじ

主人公：相沢 可憐。男性教師に犯された過去を秘めた女子高生

相手：棚橋先生。新たに赴任してきた男性教師

起 数度のレイプ被害を秘め、加害した教師を告発し続ける可憐。新たに赴任してきた棚橋と出会う。

承 「コイツもどうせ男だ」と侮蔑する相沢と、彼女の自分への視線がただ事ではないことを感じ取り気にかける棚橋。

転 しつこく声をかけてくる棚橋を首に追いやるため、逆に相談と称して密室で棚橋を押し倒す伽蓮。しかし、今までの教師のように理性を失わない棚橋。受けたことのない優しい愛撫に戸惑いながら、快感に身を任せるヒロイン。

結 後日、可憐との行為に対しての責任を取るため、棚橋は辞表を用意するが、可憐がその辞表を破り捨てる。
「あたしの卒業見届けてね、棚橋先生」

・学校の体育倉庫で、男性教師からレイプされる可憐。射精後油断した教師をスマートフォンで撮る。シャッター音で場転。

・クラスメイトの声でふと我に帰る相沢。レイプ被害者の告発で男性教師がまた一人飛ばされたとの噂。
クラスメイト「これで二人目だって、怖あ」

・最初は体育教師から被害をうけ、次はその相談をした担任からも被害を受けた相沢。
「男はみんな若いメスを屈服させたいだけの猿だ」

・入れ替わりで他校から赴任してくる棚橋。
「また男の教師か」
睨み付ける相沢と、それに気づく棚橋。

・歳若く物腰柔らかな印象の棚橋、男子生徒と親しげに話し、女子生徒の人気も高い。
一方相沢はやはり信用しない様子。
それに気づく棚橋、相沢に話しかける。

・「私に言いたいことがありそうな顔をしていたので」と微笑む棚橋。微笑み返しながらも心中で悪態をつく相沢。

・事あるごとに声をかけてくる棚橋。相沢「コイツもやっぱり男だ。そんなにあたしに近づきたいなら、望み通りにしてあげる」

・相沢、棚橋に相談があると持ちかけ生徒指導室で二人きりに持ち込む。
棚橋「もし私だけで難しい話であれば、女性の先生も呼んでできますが」
相沢「話があるのは先生の方でしょ？」
言いながら棚橋にしなだれかかる。

・相沢「毎日熱い視線で送ってきて…先生もあたしの体目当てなんでしょ？」
わざとらしく衣服を脱ぎ誘惑するも、棚橋に止められる。
棚橋「先生も…とは？」
イラつく相沢、棚橋を押し倒す。
(早く本性表せよ猿…！)

・覆いかぶさり棚橋のズボンをおろすも反応していない。相沢、制止する棚橋の顔にまたがり手コキで勃たせようとする。

・勃起する棚橋に「何のかんの言って、触れたら反応しちゃうんですね」とバカにしたように煽る相沢。それに対し「これはあなたが、誰かに同じようなことをされて覚えたことですか？」余裕なげながら真剣な目で相沢に返す棚橋。

・凶星を突かれ、誤魔化すようにフェラを始める相沢。棚橋はされるがままだが、射精を耐える。焦る相沢「何でアイツらみたいに襲ってこないの…!？」
棚橋「私が大人で教師だからです。…こうなってはもう同類ですがね」

・自分を襲った大人とは違う棚橋に動揺する相沢。
棚橋「同類ついでに、レイプとセックスの違いを教えてください」
相沢「実技で教えてくれるってこと？面白いじゃない」
棚橋「はは…ひとまずは互いの同意を得られたということですかね」

・柔らかく、丁寧に相沢の体を撫でていく棚橋。
相沢「…何それ、全然良くないんですけど」
棚橋、無言で続け、相沢の体に舌を這わせる。

・初めて甘い声を漏らす相沢。
相沢「今はただの咳払いだし…!」
棚橋、相沢の至る所をついばむように口で愛撫する。

・さらに荒くなる相沢の息。ショーツの下に入れた棚橋の手がびしょびしょになるくらいに相沢が濡れている。そのまま優しく指で相沢の膣内をかき混ぜる棚橋。

・棚橋に痛くないか尋ねられ、「なかなか上手いんじゃない？」と返事する相沢だが、ずいぶん余裕のない気持ちよさそうな表情をしている。
優しげな眼差しを送る棚橋。

・引き続き中を弄られ、棚橋にしがみついたまま絶頂する相沢。
「何でこんなに気持ちいいの…?」

・棚橋「私が相沢さんのことを思って触れているからですよ」
相沢、自分への触り方も扱いも、今までの男とは全然違うことに気づく。
相沢「先生…セックス、最後まで教えて」

・ゴムをつけ、相沢の身を案じながらゆっくりと挿入する棚橋。
相沢「苦しいけど、痛くない」

・徐々に動きを早めていく棚橋。相沢の弱い部分を探り当てながら、適確に突く。
相沢「こんなの知らない…!気持ち良すぎて怖い…!」

・髪を振り乱して感じる相沢を強く抱きしめる棚橋「たくさん気持ち良くなってください」
相沢、潮を噴いて絶頂。

・派手に絶頂した相沢を案じる棚橋に対し、「まだ先生がイッてない。セックスじゃない。」と駄々をこねる相沢。
対面座位で二回戦突入。

・棚橋にキスをねだる相沢「好き同士なのがセックスなら、キスしないのはおかしい」
棚橋少しためらうも押しに負けてキス。
上も下もドロドロにして絡み合う二人。

・キスをしたまま体位を変えつつ交わり、二人で絶頂。くたくたの相沢を優しく抱きしめる棚橋。

・翌日、校舎前で辞表を手にあたずむ棚橋。
それを横から奪い取る相沢。

・辞表を破り捨て「責任もって卒業まで見守ってね」と棚橋に笑顔で言う相沢。
終わり。